

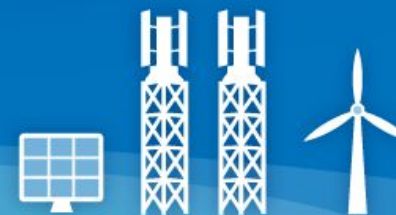
Waste Water Treatment



Comfortable household equipment



Natural Energy



2023年12月期 連結決算概要

2024年2月14日

2023年12月期 連結決算概要

	2022年	2023年		2023年	
	実績	実績	前期比	予想	予想比
売上高	394.7億円	426.8億円	+8.1%	400.0億円	+6.7%
営業利益	8.2億円	6.6億円	△20.1%	5.7億円	+15.9%
経常利益	11.7億円	8.3億円	△28.6%	6.6億円	+26.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	5.7億円	2.0億円	△64.3%	3.2億円	△37.2%

2023年の状況

- 原材料・外注費の高騰、販管費の増加に伴う営業利益の減少
 - 人的資本への投資（定期昇給と合わせて2022/4に6%、2023/4に5%の上昇率にてベースアップ実施）
 - 生産性向上を目的としたITツールの導入（Slackおよびkintoneの導入）
 - 海外事業への投資（新工場稼働時の教育実施に伴う渡航費用や現地スタッフの採用、海外向け浄化槽の研究開発）
 - M&Aによる成長分野への投資（再生可能エネルギー関連事業、住宅機器関連事業の強化）

- 固定資産の減損損失計上による当期純利益の減少

2023年12月期 セグメント別概要

 環境機器関連事業	2022年	2023年		2023年	
		実績	前期比	予想	予想比
売上高	204.7億円	210.1億円	+2.6%	200.3億円	+4.9%
セグメント利益(営業利益)	14.9億円	14.2億円	△4.9%	13.2億円	+7.9%
参考：経常利益	16.5億円	15.4億円	△6.6%		

2023年の状況

- 国内売上：大型案件の進捗、設備投資需要の回復に伴う修繕工事の受注増加、新たなサービスの展開
- 海外売上：インド・スリランカにおける引き合いの増加によって売上は増加しているものの、前年のイラク案件のような超大型案件がないことから減少
- ストックビジネス：排水処理施設メンテナンス事業及び地下水飲料化事業ともに堅調に推移

参考情報

- 海外の状況【グループ決算への取り込みは3ヶ月遅れであり、2023年12月期に取り込んでいる海外数値は2022年10月～2023年9月】
 - スリランカ：小型浄化槽の組立工場が2022年10月に完成し、出荷開始。経済活動停滞による影響は生じたものの開発案件は動き始めており、引き合い増加
 - インド：中大型浄化槽の製造工場が予定より遅延して2023年2月に初出荷。製造人員の育成に時間を要しており、供給が需要に追いついていない状況。
- 仕入価格等の上昇に伴う販売価格への転嫁
 - 樹脂やガラス繊維などの仕入価格や外注費の値上げ継続中
 - 小型浄化槽：国による認定品であることから価格での競争は難しく、営業戦略の一つとして価格は据え置き
 - 中型・大型浄化槽、産業排水処理システム：取決価格の交渉・積算時の見積もり時点での反映を実施しているものの、タイムリーな転嫁は出来ていない状況
- 海外輸送費はコロナ前の水準へ回復

2023年12月期 セグメント別概要

 住宅機器関連事業	2022年	2023年		2023年	
		実績	前期比	予想	予想比
売上高	164.2億円	183.0億円	+11.5%	175.0億円	+4.6%
セグメント利益(営業利益)	3.2億円	2.7億円	△13.6%	3.9億円	△28.7%
参考：経常利益	4.3億円	3.6億円	△14.7%		

2023年の状況

- 売上(卸売)：主力商品については供給が正常化したことにより売上増加、ホームセンター向けのリテール商材販売はコロナの5類移行による行動制限解除や天候不順の影響によってリフォーム需要やDIY需要の減少によって売上減少
- 売上(工事)：子会社の取得による空調設備工事の増加によって工事売上は大きく増加。また、農業温室工事や外壁工事も設備投資需要の回復に伴って好調
- セグメント利益：仕入価格の高騰を販売価格に転嫁出来ていない状況であり、利益率低下

参考情報

- 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う各メーカーの出荷制限に伴う商品供給の遅延は解消
- 木構造事業を2024年より本格化
 - 地域産材利活用方法の提案・構造設計・部材製造・販売・建て方支援などの幅広い業務を当社が請け負う
 - 2023年までは商社としての展開であったが、2024年からはメーカーとして展開を進めることで利益率の改善に貢献見込み
- 仕入価格等の上昇に伴う販売価格への転嫁
 - 商品の仕入価格や外注費の値上げ継続中

2023年12月期 セグメント別概要

再生可能エネルギー 関連事業	2022年	2023年		2023年	
		実績	前期比	予想	予想比
売上高	19.3億円	27.4億円	+41.7%	18.5億円	+48.5%
セグメント利益(営業利益)	1.9億円	2.5億円	+31.6%	3.1億円	△16.3%
参考：経常利益	1.9億円	2.5億円	+36.1%		

2023年の状況

- 太陽光：自社保有による売電(FIT活用またはPPAモデル)への注力に加え、施設販売案件によって売上は増加
- 小形風力：FITによる売電施設は現在24サイト稼働中
- BDF：軽油に当社製品を5%混合したB5軽油の契約数増加

参考情報

- 太陽光：買収した子会社を中心としたPPAモデルへの展開。
 - FIT施設：商業施設店舗屋根置きFIT施設129サイトをベースに全188サイト（前年より27件増加）が稼働中
 - PPA施設：大口の電力需要家向けに自社所有の施設からの売電を2023年3月より開始、現在は16サイト稼働中
- 小形風力：FITによる売電施設について、2025年までに70サイト稼働に向けて推進。環境省の実証事業に参画し、純国産の50kW風力発電機の開発・普及へと取組
- BDF：製造プラントのある愛媛だけでなく、需要の多い関東地方での事業展開が進捗中（製造プラントを建設中）。また、他社と連携し、空港施設内で利用されるトーイングトラクターや路線バスへの給油の実証実験を開始

2023年12月期 セグメント別概要

 その他の事業 (家庭用飲料水事業)	2022年	2023年		2023年	
		実績	前期比	予想	予想比
売上高	6.4億円	6.2億円	△3.1%	6.5億円	△4.2%
セグメント利益(営業利益)	0.4億円	0.3億円	△20.9%	0.4億円	△7.0%
参考：経常利益	0.3億円	0.2億円	△26.2%		

2023年の状況

- ボトル型ウォーターサーバーの契約数は減少、水道直結型ウォーターサーバーの契約数は増加
- 水道直結型ウォーターサーバーの契約数増加に対応するために専門の人員を先行投資していることから利益率は減少

参考情報

- 廃プラスチックの問題等によって、ボトル型ウォーターサーバーから水道直結型ウォーターサーバーへの移行を展開中。
- 主な営業活動については、いずれも愛媛・広島地区にて実施
- 水道直結型がサブスクモデルであることからボトル型ウォーターサーバーと比較すると利益率は低いものの、ストックビジネスとして企業基盤の強化に貢献